様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 １１ 日現在

機関番号：３５３０７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ００９７２

研究課題名（和文）吉備地方寺院古文書による中世荘園の復元的研究

研究課題名（英文）The Restoring study of Shoh'en manors in Medieval Kibi region by using Documents of Buddhist Temples as Historical Materials

研究代表者
苅米　一志（KARIKOME, Hitoshi）

就実大学・人文科学部・教授

研究者番号：６０３３４０１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：岡山県域における寺院の中世古文書を収集・整理し、所在する荘園についての分析・考察を行った。個別具体的には、備前国の西大寺・安養寺・本蓮寺、美作国の豊楽寺文書について、より深く考察し、所在する金岡東荘・新田荘・牛窓保・弓削荘についての荘園史的事実を確定した。これとあわせて、岡山県域における中世古文書、中央の古記録などを参照することにより、岡山県域における荘園と武士団の所在を明らかにした。また、必要に応じて現地調査を行い、祭祀・修法などの民俗慣行を観察し、荘園の領域における氏子・檀家圏が中世に遡及する可能性についても考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
岡山県域において、中世古文書を有する寺院を網羅して分析・考察を行い、その成果を公表することで、地域住民が当該寺院の歴史を具体的に知ることができるようになった。また、寺院が所在する地域が、かつてどのような荘園名で呼ばれ、その領主はどの権門であり、また地元の有力な武士団としてはどのような存在があるのか、郷土史の観点からしても興味深い事実を発掘している。さらに古文書の写真と翻刻を提示し、その読解の結果を公表することで、地域の歴史を研究するための方法例を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：The medieval archives of temples in Okayama Prefecture were collected and organised, and the manors in which they were located were analysed and discussed. Specifically, the documents of Saidaiji, Anyoji and Honrenji in Bizen Province and those of Horakuji in Mimasaka Province were examined in depth, and the manor-historical facts regarding Kanaoka-higashi-so, Nitta-so, Ushimadoho and Yuge-so were established. In addition to this, the location of manors and warrior clans in the Okayama Prefecture area was clarified by referring to medieval archives and central archives in the Okayama Prefecture area. In addition, field surveys were conducted as necessary to observe folk practices such as rituals and shuho, and the possibility that the clan and danka sphere in the manorial domain could be traced back to the medieval period was also considered.

研究分野：日本中世史

キーワード：中世寺院　古文書　荘園

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

中央大寺社や公家の有する中世古文書は膨大であり、従来はこれに依拠する形で地方荘園の研究が進められてきた。一方、荘園名は知られているが、史料が断片的にしか残存しないものについて、その研究が進展しているとは言い難い。中央権門の史料のみによる限り、荘園史の研究が全国的なレベルで展開することは難しい。これに加えて、寺社の有する古文書がしばしば宗教的な内容を含み、一般的な荘園史の研究者にとっては難解な部分があるという障害もある。

しかし、地方の中小寺社には少ないながらもまとまった形で古文書を有するものも多く、現在の県域レベルでそれらを悉皆収集して整理し、分析することは可能である。中央権門のそれよりも、現地の情報を多く含む地方寺社の古文書に焦点をあて、従来は知られていなかった荘園史的事実を発掘することが可能と考え、岡山県域を対象として本研究を展開することとした。なお、地方の寺院と神社を比較した場合、一宮などを除いては寺院の側が多くの史料を有する場合が多く、ここでは寺院古文書に対象を限定することとした。

なお、研究を開始する直前の成果「中世『地方寺院文書』の形成」（中山一麿編『寺院文献資料学の新展開』第５巻、臨川書店、2020 年）においては、地方寺院文書の特質として、最古の文書であっても開創を語るものではなく、むしろ荘園の立券に類似すること、それが最古の文書として残存していることは、寺財の所有を保証する文書として重視されたことを示すこと、全体として修法・祈祷に関わる文書はほとんど見られず、土地など経済基盤の保証を示す文書が圧倒的に多いこと、寺院内部で作成された文書はほとんどなく、存在した場合は経済的な危機に対応するものであること、などの特徴を指摘している。この見通しに従って、研究を開始した。

２．研究の目的

岡山県域において、中世古文書を有する寺院を網羅的に抽出し、所蔵する中世古文書を少なくとも活字の形式で悉皆収集する。それにより全体的な傾向を把握した上で、比較的多数の古文書を有する寺院を選び、その読解・分析を通じて、寺院が所在する荘園の個別的事実を明らかにする。具体的には、荘園領主（本家・領家）、立券にいたる過程、その後の伝領、地頭設置の有無（武士団の存否）、下地中分の遂行過程、南北朝期における領主の変遷、室町期以降における守護・戦国大名による現地支配などを明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

研究方法として、以下の諸点を挙げる。**a**．対象とする地域における寺院古文書の所在と現況を確認し、可能な限り原本調査を進めること、**b**．活字史料を再検討し、新たな釈文を作成すること、**c**．作成した釈文にもとづき、中央大寺社の古文書とも比較した上で、寺院の所在する荘園について詳細なデータを作成すること、**d**．さらに歴史地理学・民俗学的な現地調査にもとづいて、当該地域における詳細な荘園史を復元すること。

まず『岡山県古文書集』をはじめとして、自治体史の史料編から中世寺院古文書を悉皆収集し、活字のデータ化を進める一方、原本や写真が確認できるものについては、撮影と法量のデータ採取を行う。数十通の単位で古文書を有する寺院については、個別具体的な読解と分析を進める。具体的には備前国の西大寺（岡山市東区）・安養寺（和気町）・本蓮寺（瀬戸内市）、美作国の豊楽寺（岡山市北区）の古文書が挙げられる。これらに基づき、それぞれ備前国金岡東荘・新田荘・牛窓保・弓削荘について、上記の荘園史的事実を確定していく。また、寺院および周辺における民俗慣行を観察し、それが時代的にどの程度遡及できるかについて考察を深める。これによって、中世荘園における寺院の影響力についても考察することとする。

４．研究成果

上記３に挙げた寺院のうち、初年度には本蓮寺文書の翻刻と写真に解説を加えて『吉備地方中世古文書集成（３）備前本蓮寺文書』として刊行し、最終年度には同様に『吉備地方中世古文書集成（４）美作豊楽寺文書』として刊行した。

本蓮寺そのものについては、天台浄土教系の寺院であったものが、南北朝期以降に日蓮宗寺院となり、舟運や商業に関わる人々の信仰を集めたこと、古文書群に多く見られる寄進状には、「売寄進」の形態が見られ、徳政による取り戻しを防ぐ意図が観察できること、檀越の筆頭として石原氏がおり、瀬戸内海舟運において活躍し、その一族から寺院の住持となる人物も出たこと、などを指摘した。本蓮寺が所在する牛窓保については、石清水八幡宮領であること、鹿忍荘と隣接しているが、その領域が牛窓保と入り組んでいること、荘鎮守として牛窓八幡宮があり、本蓮寺が一種の神宮寺として機能していることなどを指摘した。これらから帰納すると、石清水八幡宮神人が瀬戸内海舟運に関わっていた時代から、商人の性格をもつ日蓮宗門徒がそれを担う時代へと移り変わっていったことも推測できる。

豊楽寺については、天台浄土教系の寺院であり、薬師如来を本尊として世俗に湯屋・風呂を提供していたこと、鎮守として若王子を有することから、熊野修験との関係も推測されること、早期に寺院法を確立させたが、僧侶自体が世俗との間で揺れ動いており、不断に分裂の契機をはら

んでいたこと、室町期以降は遠近の領主層（国人・地侍）の信仰を集め、多くの土地の寄進を受けたこと、などを指摘した。豊楽寺が所在する弓削荘については、京都の金剛心院の文書との比較により、金剛心院を本家とする平家領として成立したこと、池大納言家から久我家に伝領されたこと、鎌倉末期に伊賀氏が領家となったこと、南北朝期以降は山名氏・赤松氏という守護の交替の中においても堅実に土地の集積を進めたこと、などを指摘した。

以上とあわせて、岡山県域の荘園における武士団の分布についても検討し、備前国における伊賀氏・松田氏・頓宮氏などの動向についても明らかにしている。鎌倉期において、これらの勢力は拮抗するものであったが、南北朝期における政争の影響を受け、伊賀氏・頓宮氏は没落し、松田氏が室町幕府奉公衆として、守護である赤松氏を牽制したこと、備前における赤松氏の支配拠点については、鎌倉末期までに頓宮氏が基盤を準備していたことなどが明らかとなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 苅米一志	４．巻 863
２．論文標題 総論「変革期の社会と宗教」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 歴史評論	６．最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 苅米一志	４．巻 31
２．論文標題 備前頓宮氏についての基礎的考察	５．発行年 2021年
３．雑誌名 吉備地方文化研究	６．最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計2件

１．著者名 就実大学吉備地方文化研究所（編）	４．発行年 2021年
２．出版社 就実大学吉備地方文化研究所	５．総ページ数 112
３．書名 吉備地方中世古文書集成（三）　備前本蓮寺文書	

１．著者名 就実大学吉備地方文化研究所（編）	４．発行年 2023年
２．出版社 就実大学吉備地方文化研究所	５．総ページ数 64
３．書名 吉備地方中世古文書集成（四）　美作豊楽寺文書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

就実大学　吉備地方文化研究所　紀要 https://www.shujitsu.ac.jp/news/detail/1456 就実大学　吉備地方文化研究所　書籍・刊行物 https://www.shujitsu.ac.jp/news/detail/1888

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関